

1 8月の感染症発生状況（報告のあった疾病のみを記載）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和8年8月	令和7年8月
◆一類感染症 （発生なし）	0件	0件
◆二類感染症 ・結核	31件	26件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症	19件	11件
◆四類感染症 ・デング熱 ・マラリア ・レジオネラ症	2件 2件 4件	0件 0件 3件
◆五類感染症（全数把握疾病） ・アメーバ赤痢 ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ・急性脳炎※ ・クロイツフェルト・ヤコブ病 ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症 ・後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む） ・侵襲性インフルエンザ菌感染症 ・侵襲性肺炎球菌感染症 ・多剤耐性緑膿菌感染症 ・梅毒 ・破傷風 ・百日咳	1件 2件 1件 2件 3件 5件 3件 5件 2件 60件 1件 4件	1件 4件 1件 0件 1件 3件 1件 2件 — 50件 1件 184件
◆五類感染症（定点把握疾病：第32週～第35週（8月3日～8月30日分）） ・報告数上位の疾病は①新型コロナウイルス感染症（443件：前月比0.76倍）、②感染性胃腸炎（313件：前月比0.65倍）③手足口病（295件：前月比0.31倍）となっています。 ・8月を通じて、多くの感染症が減少した中、インフルエンザの上昇が特筆されます。新型コロナウイルス感染症が比較的緩和な減少を示しています。		

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く

2 トピックス

《結核 ― 9月24日から9月30日は結核・呼吸器感染症予防週間です―》

「結核なんて過去の病気」と思っていないですか？医療や生活水準の向上によって結核は薬を飲めば治る時代になりましたが、今でも全国で年間 9,899 人の新しい患者が発生し、1,474 人が命を落としており、日本の重大な感染症の1つです。

なかでも名古屋市は、政令指定都市の中で 5 番目に結核罹患率の高い状況にあります。令和7年に名古屋市で新たに結核と診断された患者は 252 人で、その内過半数が70歳以上となります。69歳以下の働く世代も4割以上を占めており、年齢問わず注意が必要です。

令和7年 名古屋市の結核

【患者数及び罹患率】

	全国	名古屋市
新登録患者数 (新たに発生した患者数)	9,899 人	252 人
罹患率 (人口 10 万人あたりの新登録患者数)	8.0	10.7

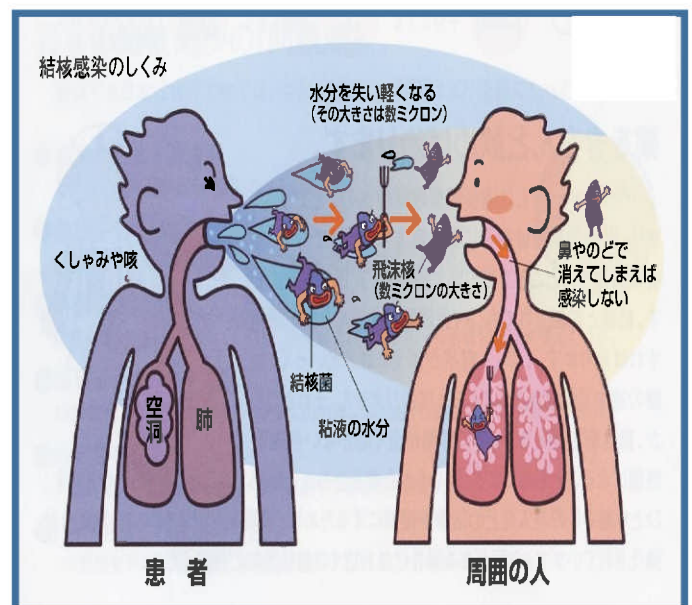
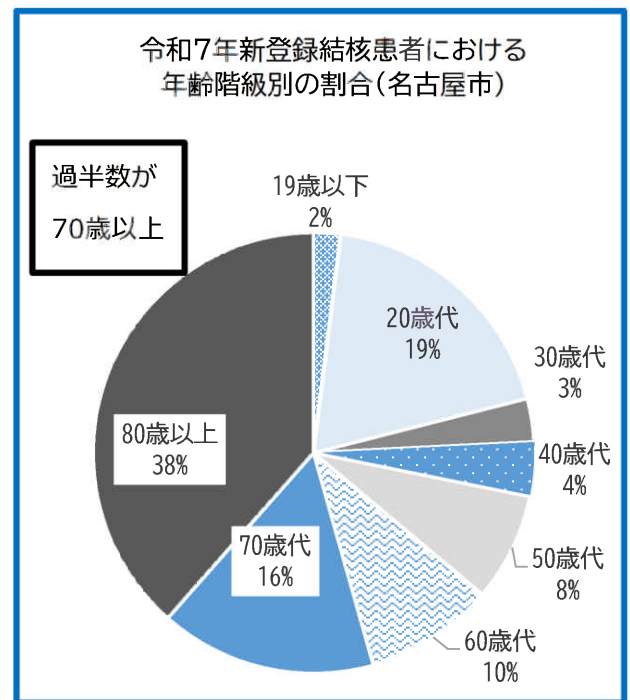
【政令指定都市結核罹患率上位5市】

- 大阪市 17.4
- 堺市 14.4
- 静岡市 13.3
- 神戸市 12.6
- 名古屋市 10.7

結核とは、結核菌によって主に肺に炎症が起る病気です。結核菌の混ざった「しぶき」が咳やくしゃみと一緒に空気中に飛び散り、それを周りの人が直接吸い込むことによって感染します。

症状は咳、たん、倦怠感、微熱等とかぜとよく似ていますが、2週間以上続くことが特徴です。高齢者の場合、症状が現れにくいこともあります。

昔とは違い、結核になってもきちんと服薬治療をすれば、ほとんどの人が治ります。しかし、症状を放置して悪化してしまうと、人にうつしてしまったり、入院が必要となって

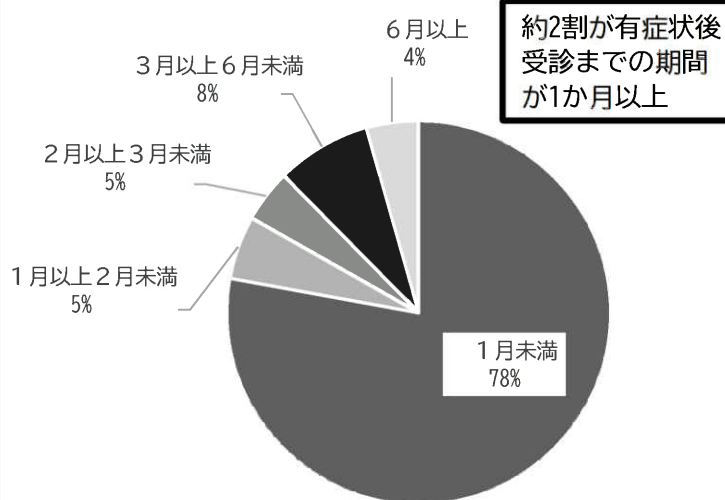


しまうので、早く見つけることが大事です。

令和 7 年に新たに結核と診断された名古屋市の患者について、症状が出てから受診までの期間が 1 か月以上あった方の割合は約 2 割あり、そのうちの約 8 割は、症状が出てから受診まで 2 か月以上を要していました。

結核は市販薬では治らない病気です。複数の薬を 6 か月以上毎日服用する必要があります。かぜ症状が長引く場合は、早めに呼吸器を専門とする医療機関を受診し、かぜ症状が長引いていることを医師に伝えましょう。

令和7年新登録有症状肺結核患者受診までの期間割合



結核をまん延させないためのポイント

【結核の主な症状】

結核の症状はかぜの症状に似ています。以下の症状が 2 週間以上続く 場合は、結核を疑い、呼吸器科を専門とする医療機関を受診しましょう。

- 咳やたん
- 体がだるく、活力が出ないなどの倦怠感
- 体重が減る
- 微熱

【結核の予防】

結核は、免疫力の低下などが発症の引き金となるので、普段から健康的な生活を心がけ、免疫力を高めておきましょう。

- 睡眠を十分にとる
- 適度に運動をする
- バランスのとれた食事をする
- タバコを吸わない
- 定期的な健診

【健康診断の受診】

年に 1 回は、胸部エックス線検査等の健康診断を受けましょう。本市では、勤務先等で検査を受診する機会のない 40 歳以上の方に対し、委託医療機関において 肺がん・結核検診を行っております。詳細は、市公式ウェブサイト「肺がん・結核検診」をご参照ください。

(<http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000008969.html>)



名古屋市肺がん・結核検診

呼吸器感染症について

新型コロナウイルス感染症や季節性インフルエンザ、RS ウイルス感染症、細菌性肺炎など、病原体（細菌やウイルス、寄生虫など）への感染により、かぜや咽頭炎、気管支炎、肺炎などを引き起こす感染症です。

感染経路は、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる病原体によって感染（飛沫感染）する場合や、病原体が付着した手で口や鼻に触れることによって感染（接触感染）すると考えられています。

例年、秋冬に特に流行するため、普段の生活や海外渡航時などにおいて、感染予防に一層の注意が必要です。

呼吸器感染症を予防するためには

呼吸器感染症対策の基本は、換気や手洗い、手指消毒を行うとともに、効果的な場面でのマスクの着用を含む咳エチケットが大切です。外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前など、こまめに手を洗いましょう。

～『咳エチケット』とは～

◎咳・くしゃみが出る時は、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。マスクを持っていない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を覆い、周りの人から顔をそむけましょう。

◎鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにフタ付きのゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗いましょう。

◎症状のある人はマスクを正しく着用し、周囲への感染防止に努めましょう。

名古屋市内における感染症の流行状況等の情報は、本市ウェブサイトに掲載していますので、ご参照ください。

URL : <https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-3-0-0-0-0-0-0-0.html>

厚生労働省では、毎年 9 月 24 日～30 日を「結核・呼吸器感染症予防週間」と定め、結核及び呼吸器感染症に関する正しい知識の普及啓発を図ることとしています。

3 病原体分離情報（令和 8 年 8 月分）

1. 令和 8 年 8 月 5 日発症、令和 8 年 8 月 6 日に市内医療機関を受診し、診断名無記載、38 度台の発熱を伴う居住区不明、0 歳 2 か月、男児の検体（便及び咽頭拭い液：8 月 6 日採取）から、低月齢児が感染すると、突然の高熱、高度な頻脈、網状チアノーゼ、腹部膨満、手のひらや足底の紅斑（赤い発疹）などを呈し、重症化するケースもたびたび見られるヒトパレコウイルス 3 型（HPeV-3）を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

4 ARI サーベイランス実施状況

2026. 8. 5～2026. 8. 27 受付分（被検者 計 26 名）

	合計
AdV	2
HRV/EV	8
HPIV1	4
HPIV3	3
RSV	2
SARS-CoV-2	4
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	4
<i>Chlamydia pneumoniae</i>	1
計	28

＊同一患者での重複感染例あり

AdV:アデノウイルス, HRV/EV:ヒトライノウイルスまたはエンテロウイルス, HPIV:ヒトパラインフルエンザウイルス, RSV:RSウイルス, SARS-CoV-2:SARS コロナウイルス 2

Mycoplasma pneumoniae: 肺炎マイコプラズマ, *Chlamydia pneumoniae*: 肺炎クラミジア

ARI サーベイランスの病原体検出・同定は、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

5 医療機関からの百日咳菌（菌株）薬剤耐性検査依頼

市内医療機関より、患者より分離した百日咳菌（菌株）の薬剤耐性調査の依頼はありませんでした。

百日咳菌株に関する薬剤耐性遺伝子検査は、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和8年 第32週～第35週（令和8年8月3日～令和8年8月30日）

	*小児科・急性呼吸器感染症定点報告 (50医療機関)													眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)							合 計
	インフルエンザ （鳥インフルエンザ及び 新型インフルエ ンザ等感染症を除く）	新型コロナウイルス感染症※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足 口病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急性呼吸器感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 （インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）	感染性胃腸炎 （病原体がロタウイルスであるものに限り）	インフルエンザによる入院患者	新型コロナウイルス感染症※による入院患者	
千種	8	22	1	1	2	25	-	22	-	2	1	-	264	-	1								349
東	8	9	-	-	3	-	2	7	-	2	1	-	468										500
北	11	20	3	1	1	14	1	11	-	1	6	-	721	-	-	1	1	14	-	-	-	1	807
西	15	92	7	2	8	28	2	88	1	6	80	3	1,667	-	-								1,999
中村	13	28	4	-	6	29	1	-	-	1	1	-	306	-	2								391
中	3	3	-	-	4	20	1	7	-	-	1	-	130										169
昭和	6	22	-	-	1	12	-	1	-	-	1	-	68	-	-	-	-	10	-	-	2	1	124
瑞穂	6	17	4	1	-	-	-	2	-	-	-	-	24	-	-								54
熱田	-	1	1	-	-	-	-	1	-	1	-	-	94	-	-								98
中川	13	64	2	7	12	35	-	37	-	3	20	-	762			-	-	13	-	-	-	8	976
港	4	18	-	-	8	14	1	12	-	2	1	-	136										196
南	27	38	3	-	1	18	-	20	-	-	5	-	844	-	1								957
守山	7	34	-	-	1	23	3	3	-	-	-	-	620										691
緑	10	18	2	-	7	52	2	42	-	2	10	2	498	-	-								645
名東	13	42	2	1	9	30	-	31	-	-	11	-	815	-	-								954
天白	3	15	5	-	-	13	1	11	-	-	3	1	173	-	1								226
合計	147	443	34	13	63	313	14	295	1	20	141	6	7,590	0	5	1	1	37	0	0	2	10	9,136
前月	27	580	23	34	142	484	33	954	1	40	498	6	12,543	0	7	1	2	36	0	1	1	11	15,424
前月比	5.44	0.76	1.48	0.38	0.44	0.65	0.42	0.31	1.00	0.50	0.28	1.00	0.61	-	0.71	1.00	0.50	1.03	-	0.00	2.00	0.91	0.59
昨年同月	45	1,837	50	32	82	329	12	27	196	24	130	1	9,439	0	22	0	0	21	0	0	0	79	12,326

* 2025年4月7日（第15週）から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始されるとともに定点医療機関数が増えられました。

※ 病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。

は、報告する医療機関がないことを表す。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報）令和8年8月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)		合 計
	性感器 症クラミジア	ウ性 イルヘル ス感染 症	尖圭 コン ジロー マ	淋菌 感染 症	感黄メ 染色チ 症ブシ ドリン 球耐 菌性	肺ペ 炎ニ 球菌 リ感 染耐 症性	
千種	3	0	0	0			3
東							
北	18	7	4	5	2	0	36
西	1	1	0	0			2
中村	0	0	1	1			2
中	31	26	12	10			79
昭和	7	3	3	1	2	0	16
瑞穂	0	0	0	0			0
熱田							
中川	4	2	5	6	1	0	18
港							
南	0	0	0	0			0
守山	0	2	1	0			3
緑	7	0	0	6			13
名東	3	8	0	0			11
天白	1	1	2	2			6
合計	75	50	28	31	5	0	189
前月	72	68	35	31	5	0	211
前月比	1.04	0.74	0.80	1.00	1.00	-	0.90
昨年同月	87	76	37	33	11	0	244

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

*薬剤耐性緑膿菌の感染症基幹定点報告は、4月6日まで。
4月7日からは全数報告の対象疾病に変更されました。

8月分患者報告数	
週報分	9,136
月報分	189
合 計	9,325

令和8年 8 月の一～三類感染症発生状況

(診断日で集計)

	疾 病 名	令和8年 8 月	令和8年計	令和7年計	令和6年計
		患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SA RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属ME RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H5N1)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H7N9)	-	-	-	-
三類感染症	コレラ	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	1	-	-
	腸管出血性大腸菌感染症	19 (5)	60 (13)	73 (17)	52 (15)
	腸チフス	-	2	-	-
	パラチフス	-	-	-	1
	合 計	19 (5)	63 (13)	73 (17)	53 (15)

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和8年 8 月	令和8年計	令和7年計	令和6年計
	患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
O157	12 (3)	37 (6)	50 (5)	31 (6)
O26	1 (1)	4 (1)	3	5 (3)
O103	3	7 (1)	5 (4)	5 (1)
O111	1 (1)	3 (1)	2 (1)	2
O165	-	-	-	1
その他	-	4 (3)	3 (1)	2 (1)
型 不 明	2	5 (1)	10 (6)	6 (4)
合 計	19 (5)	60 (13)	73 (17)	52 (15)

注 過去3年に報告のあった菌型のみを記載。

結核 新登録患者発生状況（月報）

8月

保健センター名	令和8年8月（※）			令和8年計（※）			令和7年計			令和6年計		
	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者
	総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数	
千種	1	0	0	15	6	5	17	6	5	19	7	2
東	1	0	0	8	2	2	10	3	4	9	5	2
北	1	1	0	14	4	6	14	8	2	21	9	6
西	0	0	0	10	2	3	13	5	2	9	3	10
中村	0	0	1	21	3	13	19	5	13	22	2	7
中	2	2	0	14	3	10	18	8	17	17	7	6
昭和	0	0	2	4	1	8	11	3	7	18	5	2
瑞穂	0	0	0	8	1	4	9	2	0	8	2	2
熱田	0	0	2	5	1	6	6	1	4	10	2	3
中川	3	0	1	21	5	13	35	7	16	27	13	19
港	3	0	1	25	5	6	18	4	8	20	5	7
南	3	1	1	20	7	2	20	9	3	16	5	9
守山	5	3	0	19	6	4	18	1	2	26	11	5
緑	2	0	0	24	9	6	27	4	9	18	5	9
名東	0	0	1	7	3	6	12	6	4	10	4	4
天白	1	0	0	10	2	7	5	1	5	13	5	5
全市	22	7	9	225	60	101	252	73	101	263	90	98

※令和8年の数値は速報値です。

四類感染症（44疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和8年8月		令和8年計	令和7年計	令和6年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
E型肝炎	-		2	5	4
A型肝炎	-		3	3	1
エムボックス	-		-	-	1
ジカウイルス感染症	-		-	-	3
チクングニア熱	-		-	1	1
つつが虫病	-		-	-	1
デング熱	2		6	-	4
日本紅斑熱	-		-	5	3
マラリア	2		3	2	1
レジオネラ症	4		31	58	48
レプトスピラ症	-		-	1	-
合 計	8		45	75	67

注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（25疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和8年8月		令和8年計	令和7年計	令和6年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
アメーバ赤痢	1		11	8	20
ウイルス性肝炎 （E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	-	- - - その他： 1	- - - その他： 1	B型： 3 - - -	- - - その他： 1
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2		15	36	65
急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	-		-	-	1
急性脳炎※	1		4	5	15
クロイツフェルト・ヤコブ病	2		2	3	-
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3		22	29	46
後天性免疫不全症候群	5	無症候性キャリア： 4 AIDS： 1 -	無症候性キャリア： 25 AIDS 7 -	無症候性キャリア： 27 AIDS： 8 その他： 2	無症候性キャリア： 39 AIDS： 17 その他： 1
ジアルジア症	-		1	-	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症	3		8	27	16
侵襲性髄膜炎菌感染症	-		1	3	-
侵襲性肺炎球菌感染症	5		48	83	82
水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）	-		9	17	9
多剤耐性緑膿菌感染症	2		6		
梅毒	60	早期顕症梅毒： 45 晩期顕症梅毒： 2 - 無症候梅毒： 13	早期顕症梅毒： 284 晩期顕症梅毒： 7 先天梅毒： 1 無症候梅毒： 86	早期顕症梅毒： 379 晩期顕症梅毒： 6 - 無症候梅毒： 165	早期顕症梅毒： 315 晩期顕症梅毒： 9 - 無症候梅毒： 143
播種性クリプトコックス症	-		3	3	1
破傷風	1		1	2	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-		-	-	1
百日咳	4		67	962	35
麻しん	-		5	6	2
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-		-	1	-
合 計	89		614	1,775	819

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注1 五類感染症全数把握（侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん及び風しんを除く）を診断した場合は7日以内に届出が必要。

注2 25疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 （5 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こし得る感染症
四類感染症 （44 疾病）	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 （全数：25 疾病） （定点：26 疾病）	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 （4 疾病）	【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの 【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

（令和 8 年 8 月 3 1 日時点）